

主題科目 授業デザインフローチャート

まず、次の条件を満たしてください。

- ①キーワードを設定し、どのような現代社会の課題を取り上げるのか、明確にする。
- ②キーワードを軸にして全体の連関が見えるように授業をデザインする。
- ③学生自身が、課題発見・課題解決に関わる機会をつくる。

授業の進め方の選択

授業主題そのものをワークの題材とする、
あるいは
講義を軸に進め、授業主題を構成するトピックを
ワークの題材とする。

講義のみで現代社会の課題について解説。課題発見・解決のワークは取り入れない。

ワークの種類を選択

★「見出す」系は、広義の「課題発見」、「考え出す」系は、広義の「課題解決」に該当します（ガイドライン参照）。

「見出す」系のワークと
「考え出す」系のワークの両方

「考え出す」系のワーク

「見出す」系のワーク

課題発見＋解決
I

課題解決
II

課題発見
III

課題理解
IV

主題科目の条件③を満たしていません。講義の一部に「見出す」系・「考え出す」系のワークを組み込むとタイプI～IIIになるので検討してみましょう。

※授業タイプがI、II、IIIのいずれかに該当する場合は、DRI教育の拡充および成果可視化のための分類において、D科目となります。

タイプ判定するにあたって…

- ・ワークは、個人ワーク、グループワークのどちらでもかまいません。
- ・個人で書く／入力する活動を主とする場合でも、I～IIIタイプになります。

課題発見・解決のワークを取り入れるにあたって…

- ・学生が自分で考えられるような工夫をしましょう。
- ・いきなり作業に入らせるのではなく、十分な作業の手引きをしましょう。
- ・作業をやらせっぱなしにせず、作業についての振り返りを行いましょう。